

の風俗也、相傳ふ垂仁天皇の御宇に大己貴命、大田々根子命にをしへてのたまはく、元月元日赤白の餅を以て我が荒魂をまつらば、國の中災なうして幸福を來しめんと、すべて節辰の祭は皆大田々根子命より始るといへり、此尊常に神に見えて、人と物語するごとくかたり給ふ、是を世の人習得て、年の祭をする也。

〔日本歲時記〕正月、元日略中ふるとし製し置たる餅もちに、こんぶ、打あはび、煎海參、牛蒡、薯蕷、菘、粟、するめ、蘿蔔、いもし元日に、いもしあらめなど用る事、延喜式にみゆ、貫之がなかり、などを加へ煮て羹とし食ふ、俗にこれを名付て雜煮といふ、我國の風俗にて、悦ばしき事には餅を作りて祝ふ、此日より三日に至るまで餅をす、むるも、春を祝ふ意なるべし、もろこしにも元日に膠牙餠をくらふ事、荆楚歲時記にのせ、立春の日春餅をす、むる事、月令廣義にみえたり。

〔伊勢家禮式雜書〕伊勢守貞孝朝臣相傳條々略中

一 雜煮之圖 モチ、丸アハビ、煎海鼠、燒グリ、山ノいも、里ノいも、大豆、汁、タレ、ミソ、以上七色

家によりて、數のすくなきもあるべし、式三獻の後御まゐり肴と申は、さうにの事也、

〔改正月令博物筌〕正月、雜煮冬年に製て置たる餅に、種々の品を加へて羹として喰ふをいふ、其品根、芋の子、燒豆腐、かち栗、昆布、あはび、煎海鼠、す羹祝羹は雜煮の事也、祝ふと云は元日なり、結

るめ、うきな、牛蒡、あらめ、鱈、田づくり、中略、芋頭萬事の司頭になる心にて、祝也、又頭といふ字は大學頭、昆布祝ふ、心につび、元日に祝ふ也、云、芋頭藏人頭などいふ、字は大學頭、ふなるべ、鍊、鱈子孫繁昌によそへ、小殿原田作とも云なり、

〔華實年浪草〕正月、雜煮祝、かんを祝中略雜談抄に云、雜煮ハ餅ニ大根、芋、蹲鴟、昆布、打アハビ、イリコ、歟、是ヲ略シテ羹ヲ祝フト云、中略、年齋拾唾ニ曰、元朝餉餅ノ事、汀州嘉靖丁亥志ニ曰、結昆布煮、汀國ノ人ハ餅ヲ春テ賓客ヲ饗ス、貧キ人ハ市ニ買テ會ニナスト云々、中略、結昆布煮

ズ、昆布ハ俗悦ブト云、義ヲ含ム、ムツヒヨロコブア意ニヤ、大根、鏡草ト云、岷江煮ニ用フ、モ見ユ、

〔本朝食鑑〕三辛葱、略、中本邦正月朔旦、以冬葱供雜煮之具、呼稱福主、然辟邪之故乎、略、中芋、略、中正月

略、

略、

略、

略、

略、

略、